

自治振興区やNPOなどの連携策を探る 第2回みんなつながる講演会

REPORT 1

自治振興区やNPO法人など市民活動団体同士が
つながる活動を考える講演会が3月23日、かんぽの郷
庄原で開催されました。



▲市の人口推移を示しながら話す川北さん

庄原市自治振興区連合協議会が主催したこの講演
に、市内各自治振興区、NPO法人などから52人が参
加。

昨年度の地域づくり講演会の講師、IIHOE【人と組
織と地球のための国際研究所】の川北秀人さんが「協
働から総働へ」と題し講演を行いました。

川北さんは「地域の課題を解決するためには“協
働”の仕組みを誰かがつくるのを待っている時間はない。
市民はもちろん、行政、NPO法人、学校、専門家、事
業者など、地域のあらゆる関係機関や人材が連携し
“総働”しなければいけない」と力説。また、「最初の一
歩の踏み出し方がわからない」という会場からの質問
に「少人数でもいいのでとにかくやってみる。やって
いることをアピールし、地域のリーダーを巻き込んで
相談しながら進めていくと、周囲への理解も深まりや
すい」とアドバイスしていました。

桜とスイーツで春の庄原を満喫 備北の桜とスイーツ祭が開催

REPORT 2



▲多くの家族連れでにぎわう



▲好評だった桜列車

備北観光ネットワーク協議会主催の庄原さとやま
博連携イベント「備北の桜とスイーツ祭」が4月10
日、上野総合公園で開催されました。

天候に恵まれた当日、上野池周辺の桜は咲き始めた
ばかりでしたが、約1万人の来場者でにぎわいまし
た。

会場では、桜にまつわるコンサートや庄原焼きなど
のB級グルメが並んだフードコーナー、お茶席が設

けられ、備北地域のスイーツが集合したスイーツグラ
ンプも行われました。桜を題材にした俳句や短歌の
会、絵手紙教室や写真教室なども開催され、来場者は
穏やかな春の庄原を満喫していました。また、このイ
ベントに合わせて貸し切り列車「桜列車」が運行。広島
駅から庄原駅を結ぶこの列車に約60人が乗車し、さ
とやまの春景色を車窓から眺めながら、ゆったりとし
た列車の旅を楽しんでいました。

住み続けられる自立した地域を目指して REPORT 3

八銚自治振興センター開設

西城町の旧八銚地域の4自治振興区(八銚落合・油木・三坂・高尾)が統合し、新に八銚自治振興区が設立。4月1日に八銚自治振興センターの開所式が行われました。

西城町の北方に位置する旧八銚地区は、中心市街地からの距離や豪雪、過疎高齢化の進行といった問題を抱える一方で、豊かな自然や観光施設などの地域資源を有する地域でもあります。

共通の環境や課題を持つ4地区は自立した地域活動を目指し、平成22年4月から自治振興区の統合とその活動の拠点施設について検討を重ねてきました。そして、休校中の旧小鳥原小学校を利用した八銚自治振興センターの設置を市に要望。平成23年3月議会で八銚

自治振興区が指定管理者に指定されました。

八銚自治振興区の山口忠男会長は「自治振興区の再編は、地域の自立を目指す住民の選択。みんなで将来も住み続けられる、豊かさを実感できる地域をつくりたい」と抱負を語っていました。



▲抱負を語る山口会長(左)

みんなで美しいまちづくり

町内一斉に河川清掃

REPORT 4



▲収集されたゴミの山・清掃する参加者

高野地区公衆衛生推進会の主催による河川清掃が4月10～24日にかけて、高野地域で行われました。

町内を流れる神之瀬川の上流から下流までを、11の自治会で清掃活動を行いました。今冬の大雪のため、川の水量がまだ多く作業が困難なところもありましたが、柳の枝に引っ掛かったビニールや空き缶などたくさんのゴミが集められました。また河川敷の雑草なども刈り取られ、河川沿いはとてもきれいになりました。

参加者は「春の行楽シーズンを迎え、高野を訪れる人が気持ちよく通行してくれたらうれしい」と話し、汗をぬぐっていました。

防災意識の統一を図る

庄原市消防団比和方面隊出動式

REPORT 5

比和中学校グラウンドで4月3日、恒例の庄原市消防団比和方面隊出動式が開催されました。

この出動式は、消防団員の防災に対する意識の高揚を図るとともに、方面隊内での役員異動や新入団員の紹介などを行う、比和方面隊独自の行事として毎年実施されています。

式では、1月1日から就任した梅津孝晴方面隊長が新たな決意を述べた後、消防団員の手際よい動きで一斉放水が実施され、地域住民へ消防団活動をアピールしました。



▲一斉放水する団員



みんなの地域を話し合う 元気な地域づくり研修会が開催

 **REPORT 6**

口和文化ホールヒューマンライツで3月6日、「元気な地域づくり研修会」が開催されました。

口和自治振興区産業振興部と口和支所が主催した



▲活気あるパネルトークに聞き入る参加者

この研修会に、町内の各自治会から100人が参加。高齢化と担い手不足が深刻化する中、いかにして元気な地域づくりを進めるのかを事例発表とパネルトークを通じて考えました。

事例発表では、三次市の農事組合法人が「農地を守りながら安全な農作物を生産し安心して暮らせる地域づくり」、島根県江津市が「空き家の利活用や人材の誘致などの定住促進」、一木町が「自治会と農事組合法人との連携による6次産業化を実現する地域づくり」をそれぞれ発表。参加者は真剣な表情で聞き入っていました。

その後のパネルトークでは、発表者のそれぞれの思いや助言者の提言、参加者からの質問も加わり、会場が活気であふれました。

参加者は「口和を元気な地域にしたいというみんなの気持ちを確認できた」と話していました。

住みなれた地域で安心な暮らしを 口和で事例発表イベント「くちわのつどい」開催

 **REPORT 7**

庄原市社会福祉協議会口和地域センターが主催する「くちわのつどい」が3月19日、口和老人福祉センターで開催されました。

この催しは、庄原市社会福祉協議会が取り組む安心生活創造事業の一環で、毎年開催しているものです。

同事業の現状報告や訪問員による活動報告の後、モデル地域に指定され事業に取り組んでいる北自治振興区の住田鉄也区長が「支えあい、心でつながる地域力」と題し講演。住田さんは、高齢者世帯への訪問や一人暮らしの高齢者とのレクリエーション、地域内にデイホームを開所するなど、これまでの取り組みを紹介。また、昨年7

月の集中豪雨の際に災害対策本部を立ち上げて行った支援活動にもふれ、地域力の向上を呼びかけました。

参加者は「北自治振興区の活動を聴き、わたしたちも日ごろからお互いに支え合う仲間づくりが必要だと感じた」と話していました。



▲講演する住田区長

これからの集落営農と地域の実践に学ぶ 農政講演会ひわが開催

 **REPORT 8**



▲思いを語り合うパネリストの皆さん

今回は「営農の原点 集落で農業を考える」をテーマに2部構成で開催し、第1部は県北部農業技術指導所

比和町地域農業集団連絡協議会などが主催する「農政講演会ひわ」が3月22日、比和文化会館で開催されま

の井上誠所長が「これからの農業と集落営農」と題し基調講演を行いました。第2部では口和地域「ファーム永田」三上直美さん、高野地域「神の瀬工房」中原健二さん、比和地域「認定農業者」八川俊治さんが加わってのパネルディスカッションが行われました。

来場した70人は、これからの農政のあり方や身近なパネリストの実践事例などに熱心に耳を傾けました。

参加者は「今後の農業のあり方についてとても参考になった」「身近なパネリストでわたしたちの集落にも参考になった」と話すなど高い関心を寄せていました。

みんなで増やしたい元気と笑顔 総領町で元気向上委員会が開催

 REPORT 9



元気と笑顔を増やし安心した生活が送れるようにと3月26日、総領町健康福祉センターで「元気向上委員会」が開催されました。

今回で4回目となるこの委員会は、社会福祉協議会総領地域センターと総領支所市民生活室・総領診療所が主催し毎年開催しているもので、この日101人が会場に集まりました。

総領診療所の永井道明医師、庄原警察署総領駐在所の内空閑一郎巡査部長が健康と安全をテーマに講演。その後、総領診療所と総領支所の職員5人が、高齢者虐待防止の寸劇を行ないました。

会場では、久々に会って笑顔で会話を交わす人や湯茶の準備を買ってでる人、歩行の難しい人のお世話をする人などの姿が見られ、参加された方々が主体的に協力し合い、みんなで創り上げた催しとなりました。

参加者は「同じ町内でもなかなか会うことが少なくなった。たくさんの方とお弁当を食べたり、話しができたりしてとても楽しかった」と喜んでいました。



▲会場のような様子

旧暦ひな人形がお出迎え 東城まちなみ春まつり

 REPORT 10



▲生花やひな飾りを見に多くの人

4月2日から4月10日にかけて「街道東城路」の約600mの区間で、各家に伝わるひな飾りや生花などが華やかに並ぶ恒例の「東城まちなみ春まつり」が開催されました。

期間中、桜が咲き始めた市街地では、暖かい春の日差しの中スタンプラリーを楽しむ人やひな飾りを見なが

ら楽しく会話する多くの人々でにぎわいました。中には、春先までの寒さのため開花が遅れた福寿草自生地まで足を伸ばして散策を楽しむ人もいました。

広島市から訪れた夫婦は「帝釈峡には来たことがあっても東城の風情ある町並みは初めて。秋のまちなみギャラリーも訪れてみたい」と話していました。